

# はぎのだい

学校だより 臨時号

平成25年10月11日(金)

津幡町立萩野台小学校 校長 中川 幸代

## 学校評議員会・学力調査結果 を受けて

日増しに秋も深まり、朝夕は肌寒さを感じるこの頃です。今、子ども達は学業に真剣に取り組む傍ら、23日(水)に実施の校内マラソン大会に向けた「走ろう運動」で汗を流しています。

さて、8月末に学校評議員会が行われました。この会は、町教育委員会が委嘱した3名の学校評議員の方々が、校長の求めに応じ、主として学校の教育目標及び教育活動等、学校運営に関することについて意見を述べるというものです。資料として、平成25年度当初の学校評価計画(4月スクールフォーラムで配布済み)に基づき実施した、教職員・児童・保護者のアンケート結果からの達成度評価と分析・9月からの対応策を提示しました。この前期学校評価結果の概要(判定がB以下を中心に)と評議員の方々からいただいたご意見を掲載します。また、裏面には4月に実施されました4・5・6年生の学力調査結果の分析・対応策を掲載しました。

### ★平成25年度 前期学校評価結果

(判定がAとなった項目は除きました。)

1. 学力向上		
具体的取組	達成度	9月からの方針・方策
①基本的な学習習慣の定着	80% 判定 : B (H24 : B)	学習の準備やベル着はほぼ定着している。授業時の集中力についてもよくなってきた。保護者アンケートでも、本項目の数値は84.8%→93.8%と高くなってきている。
②繰り返し指導による漢字力や計算力の定着	78.5% 判定 : C (H24 : D)	テストの点数は各学年上昇している。今後は、個に合った練習の仕方を考えていく必要がある。計算についても学期に一回の計算テストを漢字同様に継続して取り組む。
③表現する力の育成を図る	84% 判定 : B (H24 : B)	もっと自分の表現に自信をもって発表できるように語彙をふやしていく必要がある。そこで、今後は表現に必要な語彙を一覧にした手持ちの「言葉カード」を活用させる。
④まとめとふりかえりを書くことを重視し、自分の考えの変容や学び方を知る指導をする。	89% 判定 : C (H24 : D)	書くための時間の確保はできるようになってきた。ノートの手書き方の指導や書けない児童への書き出しの掲示やよいノートの掲示などを工夫していく必要がある。
⑤家庭学習の充実と習慣化(学年×10分の定着)	89.5% 判定 : B (H24 : C)	教師、児童、保護者ともに評価が上がってきている。連絡帳を使っての家庭学習のチェックや家庭学習週間を設定し、家庭と連携して取り組んだ成果だと思われる。今後も継続していく。
⑥読書量目標値の設定と到達促進の取り組み	87% 判定 : B (H24 : C)	司書の来校が週2回となり、各学年週1回の図書室の時間設定で本に親しむ機会を増やした。また、図書担当の職員への呼びかけや掲示の工夫で、意識づけが図られ、貸し出し冊数の伸びが見られた。読書カードを書きやすくしたことも効果があった。

⑦教師の指導課題の明確化	67% 判定：D (H25より)	毎週継続して自己診断表を詳しく書くことは難しかった。言葉によるふり返り分までいかななくても、○△のチェック表は、週に一回週案と同時に、継続して書けるように努力する。
⑧校内研修体制の充実	87% 判定：B (H25より)	金沢教育事務所の指導主事に指導を受け、研修を深めている。また、県教育センターの研修サポートや研修講座にも積極的に参加し、成果を夏季休業中の研修で全職員に還元している。
<b>2. 豊かな心と社会性の育成</b>		
具体的取組	達成度	9月からの方針・方策
②『人間関係づくり指導計画』を活用した温かい学級づくり	50% 判定：D (H25より)	いじめ問題に対する対応は行ってきたが、『人間関係づくり年間指導計画』をうまく活用できなかったという意見が見られた。毎月の職員会議などで、次月の計画を明示し意識化していく。
⑤個別の支援計画の作成と有効活用	87% 判定：B (H24：A)	個人の記録（特に良かったこと）の蓄積をしっかりと呼びかけていく。個別の支援で有効な方法が1つでも見つかったら紹介し、広めていく。
<b>3. 体育・健康・安全教育の充実</b>		
具体的取組	達成度	9月からの方針・方策
②体力・運動能力調査の実施・分析・取組	87% 判定：B (H24：A)	今年度の体力テストの結果の考察を全体で交流できていないため、課題に対する取り組みが不十分であった。2学期には結果の考察を全体で共通理解し、課題に取り組んでいく。
<b>4. 開かれた学校づくりの推進</b>		
具体的取組	達成度	9月からの方針・方策
③幼保小及び小中連携の推進	89% 判定：B (H24：A)	相互授業参観や情報の交換は随時行っている。今後は、教職員に連携の内容を伝え、交流の手立ての工夫をしていく。また、小中連携では、小学生による中学生の授業参観を多くしたい。

※表の数値（%）は、肯定的評価（A+B評価）です。

### <学校評議員からの意見>

#### 学力向上について

- ・家庭学習時間が充実してきたようです。保護者の関心が高まるような手立てを設定したことがよかった。
- ・語彙を増やすことは大切なこと。「言葉カード」の活用はよい工夫です。
- ・読書量が増加したことはよかった。学校の取組は効果があった。

#### 豊かな心と社会性の育成について

- ・縦割り班活動は人とのかかわりを学ぶことができるよい取り組みである。

#### 開かれた学校づくりの推進について

- ・猿や熊などの出没情報があるが、安全面での対応ができているようで、安心である。

学校評議員の皆様からは、学校の取組に対して肯定的なご意見を多く頂戴しました。特に「表現力の育成」では、大人であっても携帯メールなどの使用で文章作成能力が低下していることを例に、「言葉カード」に高い関心を示されました。成果が出るように頑張りたいと思います。

今年度は達成度の欄に（H25より）と記されているように、評価項目全体を見直し、新しく取り入れた項目がいくつかあります。常に自らをふりかえり、学校としてあるべき姿を見直していくための羅針盤のような学校評価の精度を高めたいと考えたからです。「子どもも教職員も力がつき、保護者や地域から信頼される学校づくり」をめざし、後期も取り組んでいきます。